

授業改善推進プラン

～自ら課題を見付け、主体的に解決する生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

教科	学年	授業アンケートの分析 (アンケート結果から課題を見出し分析する) スタンダード要素から1つ		ステージを上げるための取組内容 (課題の分析を踏まえた取組目標)
		要素	課題と分析	
国語	1学年	④ 共有	意見の共有の機会があったことを75%の生徒が感じているが、他者との意見交換にとどまっている割合が45%だった。意見共有をもとに比較・深化まで進められていないことが分かった。	意見交換の時間において、何を比べ、違いを明確にさせて、その違いについて具体的に捉えて自己の意見に反映させる学習の手順を整える。
	2学年	④ 共有	他者との意見交換の機会があったことを81%の生徒が感じているが、意見交換までが35%、比較までが38%にとどまっていた。それぞれ交換から比較、比較から深化に進めることができていない。	意見交換の時間に、比較・検証を行わせ、自分との違い、気づかなかった事柄などを明確にするために、手順を説明し、授業内の目標を明確にする。
	2学年	③ 自己選択	自己選択において、70%の生徒はあったと回答しているが30%の生徒がなかったと回答し、ステージも1、2にとどまっていた。これは選択肢を提示していないことが原因である。	生徒が文法を反復学習の方法を選択できるものとして、ミライシードのワークの配信をして、生徒が自分の習熟度に合わせて問題を選択できるようにする。
	3学年	⑤ 振り返り	振り返りにおいてステージ2の生徒は30%だった。これは提示された課題には真剣に取り組めたが、その知識を活かす先と結び付けるための、振り返りの時間を十分に取っていないためである。	振り返りの場面で、何を学んだのか、何をを使って解決したのかを具体的に振り返る時間を設け、生徒の中で新たな課題設定に結びつくようにする。
社会	1学年	④ 共有	90%以上の生徒が共有の時間が設定されていたとしているが、約半数の生徒がステージ1までに留まった。共有を通して考えの比較し深化する段階まで至っていないことが分かる。	共有の場面で「自分と友達のととのめの共通点と相違点はどこか」という比較の視点を与え、共有の後に自分のととのめの足りない部分を書き直したり追記したりする「再構築の時間」を意図的に設ける。
	2学年	③ 自己選択	授業において自己選択の機会があったことは90%の生徒が認識しているが、学習の目的や自分のレベルを考慮して選択したり選び直したと回答した生徒は70%程度にとどまった。ゴールを見据えた学習の見通しが持ていなかったり、多様な学習方法のそれぞれの特徴を把握できていない生徒が一定数いたと考えられる。	中単元や大単元ごとに学習の見通しを持たせ、多様な学習方法を提示し、選択をさせる。発表や他者参照の機会を設け、生徒が学習方法の幅を広げられるようにする。
	3学年	① 課題設定	90%の生徒が課題設定の時間があったと認識しているものの、自分なりの「なぜ？」という課題意識や「次は」と学ぶ意欲につながっていると回答した生徒は70%程度だった。課題設定の時点で十分に単元のゴールがイメージできていない生徒がいると考えられる。	中単元や小単元の学習のはじめに学習の目的を提示し、生徒が学習の見通しを持てるようにする。教科書のアクティビティを活用し、学ぶ意欲につなげる。

授業改善推進プラン

～自ら課題を見付け、主体的に解決する生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

	3学年	② 見通し・ ゴール	90%の生徒が、見通す時間はあったと認識してるものの、手順を組み立てたり、計画的に進められた生徒が50%にとどまっており、効果的な単元の導入になっていなかった。	単元の学習の初めに、学びのプロセスを丁寧に伝え、単元を貫く問いの解決に向けてどのように学習をすすめればいいのか、生徒が考える時間を多く設ける。
数学	1学年	③ 自己選択	指定された方法や周りの友達と同じ方法をなんとなく選んだ生徒が25%程度いた。自分で解き方を考える時間をもっと確保する必要がある。	計算方法や解き方について、自分の考えをまとめる時間をしっかりと取る。自分の考えを、周りと共有したり、発表したりする活動を設定する。
	2学年	① 課題設定	出された課題を見て、この問題を解けばいいのかと思っている生徒が30%いたため、なぜこうなるんだろうという問いをもつ必要があると感じた。	日常生活になどの身近な内容に結びつけ、興味、関心をもって授業に取り組めるような課題を設ける。既習内容を活用して探究する時間をつくる。
	3学年	③ 自己選択	自己選択の時間があまりないと感じた生徒が20%いたため、基礎的な内容の習得に時間を多く費やし、自己選択が必要な応用問題の時間が少なかったとと考えられる。	複数の解き方のある応用問題に取り組む時間をもっと確保し、解き方については、自己選択させそれぞれのメリット、デメリットについて共有する時間をつくっていく。
	2学年	③ 自己選択	問題解決の際に、90%の生徒が自己選択の時間であることを認識していると回答しているが、一方で、自分にあった方法が選択できている生徒は65%となっており、自分に合った方法を選択する指導が足りなかった。	振り返りの際に、問題が解決できたかどうかを振り返るだけでなく、今回の学び方の選択が自分にとって適切であったかを振り返る時間も設けていく。
	3学年	③ 自己選択	学び方を自己選択し、問題解決をする時間を多く持った授業を行っていたが、問題解決の際に、自己選択の時間である認識を持っていた生徒が60%程度にとどまってしまう、自己選択の時間である指導が足りていなかった。	学び方を自己選択してよいことを声掛けするだけでなく、黒板に掲示するなどし、自己選択の時間であることをより明確にした授業を行っていく。
	1学年	⑤ 振り返り	授業の振り返りで、「どんな知識や言葉を学んだか」という結果を確かめたばかりにとどまった生徒が約5割だった。授業の最後に知識の確認で終わったことが多い結果と考えられる。	単元的に四則計算等、知識的な内容が多かったが、どのようにできたかなどを振り返りの時間を取り、自分の学び方を確認させる。
	2学年	⑤ 振り返り	授業の振り返りで、「どんな知識や言葉を学んだか」という結果を確かめた生徒が約3割いた。授業の際に、学んだことの確認で終わったことが多い結果と考えられる。	何を学んだかの確認は全体でも行い、なぜできるようになったのかを説明または記入させるようにする。そして、次の授業でも学んだことを振り返る。
	3学年	④ 共有	共有に関して、「意見を出せなかった」「友達との間で意見を出し合えた」が約4割ほどだった。意見を共有し、自分の考えを深める時間が足りなかった。	考えを比較するために共有の時間を取る。自由なグループだけではなく、教員が指定した4人グループなど、多様な意見を交流できるようにする。

授業改善推進プラン

～自ら課題を見付け、主体的に解決する生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

	1学年	③ 自己選択	「自己選択の時間があったか」という質問に対して、9割がそう思う、ややそう思うと答えている半面、ステージ1までの生徒が半数を占めていた。選んだ解決方法が自分に合ってるか意識させられていない状態であることがわかった。	プリントもほとんどの生徒が同じ難易度の問題を解いているため、難易度を分けることで自己選択につながると考える。また、単元ごとに学習の見通しを持たせ、今の状況とやるべきことを見えやすくする。
	3学年	④ 共有	「共有の時間があったか」という質問に対して、8割の人があったと回答しているが、ステージ1までの生徒が約3割いた。共有する中で、意見交換de終わってしまい、自分の考えとの比較することが十分ではないことがわかった。	共有の時間をとる前に、自分の考えを書き出す時間をとる。共有の中で、周りの意見もメモさせ、自分の考えと比較する時間を設ける。そして、その考えをもとに問題演習を行う。
理科	1学年	② 見通し・ゴール	見通し・ゴールの時間があったかという問いに対し、半数以上があったと回答しているが56%の生徒がステージ1まででとどまっており、どう進めるかの見通しが持ててないことが分かった。	単元全体のゴールを確認させた後、どのように進めていくか問いかけを行い、単元計画シートに学びの手順を書くように指導する。
	2学年	⑤ 振り返り	振り返りの時間があったかという問いに対し、半数以上があったと回答しているが56%の生徒がステージ1にとどまっており振り返りの質に改善の余地がある。	なぜ学習方法を選んだか、次の時間はどのように学習するかなど振り返りの視点を明確化する。言語化がしやすいように「～というやり方をしたから、～がうまく進んだ」という形式で成功や失敗の理由を自分の学び方と結び付けて整理させるよう指導する。
	3学年	④ 共有	共有の時間があったかどうかという質問に60%以上の生徒がそう思うと回答しているが、共有の自己評価がステージ3に届かない生徒が半数ほど見られている。自身の学習の進捗に自信がもてず、人に説明することに抵抗があることが原因の一つと思われる。	学習の途中でも現状の学習状況を他者に伝えることの有用性を伝えるとともに、振り返りシートの項目に、「他の人の考えと比較して考えたこと」について記入させて、共有した後に自分で比較内容を整理することができるようにする。
音楽	1学年	④ 共有	周りとは相談し発表をさせているが、意見の出し合いで完結してしまう傾向がある。46%の生徒がそう感じている。自分との共通点、異なる点を確認し、一歩深めた考えを導き出していきたい。	ワークシートを工夫し、「自分の意見」「他の人の意見」「類似している点」「異なる点」などの項目を設けることで、より深い意見を考えやすくしていく。
	2学年	⑤ 振り返り	授業内での振り返りの時間が十分に取れなかった反省がある。記載内容については学んだ内容の羅列が多く、45%の生徒がそう感じている。自分の学び方や今後に生かしていく内容を深めていきたい。	振り返りの内容が、学んだことの振り返りだけではなく、学びを通して今後の音楽活動にどのように生かせるか、日頃からどのようなことに気をつけて音楽活動に取り組んでいくかを記載させるよう意識させていく。

授業改善推進プラン

～自ら課題を見付け、主体的に解決する生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

	3学年	② 課題設定	与えた課題について考えさせることが多かった。、39パーセントの生徒がそう感じている自分なりの「なぜ？」に応じて解決する流れにならなかった。	発問を変え、「この部分はどのように表現すると良いのだろうか？音楽の構成要素と関連付けて考えよう」など、深く音楽を捉えさせる発問に変えていく。始めから音楽の構成要素を示すのではなく、この表現をするためにこの表現記号が必要である、との発想をさせていき、答えを導き出させていく。
美術	1学年	⑤ 振り返り	授業での振り返りについて『「どんな知識や言葉を学んだか」という結果を確かめた』が35%、『「自分の学び方」まで確認できた』が29%となった。結果ばかりにとられ、意図に応じて自分なりに工夫すること自体も学びであることがわかっていない生徒が多かったと思われる。	美術の場合、制作を進める過程自体が学びであることに気づいていない生徒が多いと思われるので、振り返りのフォーム過程を振り返らせる工夫を行う。
	2学年	④ 共有	『友達との間で、お互いの意見やアイディアを出し合って交換した』が36%で、『お互いの考えの違いを比べた』が25%となった。中間講評の機会が無かったので、改善の為の比較をする必要性が見出せなかったと思われる。	制作途中でもお互いの作品を見られる機会を作り、自分の作品に足りない部分に気づき、思考を深められるようにする。
	3学年	④ 共有	『友達との間で、お互いの意見やアイディアを出し合って交換した』が33%で、『お互いの考えの違いを比べた』が27%だった。中間講評の機会が無かったので、改善の為の比較をする必要性が見出せなかったと思われる。	中間講評の機会を増やし、自分の考えの足りない部分に気づいて思考を深められるようにする。
保健体育	1学年	⑤ 振り返り	振り返りの時間があったかという問いに対し、50%の生徒があったと回答している。一方、46%の生徒がステージ1となり、振り返りの到達度に課題が見られた。	振り返りの際に「何を学んだか」でとどめるのではなく、「何をしてきたこととどんな結果が出たのか」まで深められるよう考えを整理させる。
	2学年	⑤ 振り返り	2年生は「⑤振り返り」の項目において、ステージ1に留まる生徒が30%程度いた。 この結果から、生徒は本時を振り返ることだけをしており、学習の見通しをもっていないことや次の学習につなげられていないことがわかった。	単元を貫く問いを意識させる声掛けを行う。振り返りの際に次時へつなげるよう視点を与える。
	3学年	① 課題設定	3年生は「①課題設定」の項目において、ステージ1に留まる生徒が30%程度いた。 この結果から、生徒は出された課題を解決することだけになっており、生徒自身が新しい問いを発見できていないことや疑問をもっていないことがわかる。	提示された課題に加えて疑問にもったことを考えさせる時間を確保する。

授業改善推進プラン

～自ら課題を見付け、主体的に解決する生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

外国語	1学年	③ 自己選択	自己選択の機会があったと約90%の生徒が回答しているが、指定された方法や周りの友達と同じ方法をなんとなく選んでいる生徒が25%だった。指示を聞き逃している生徒もいる可能性がある。視覚的な訴求が必要である。	指定された方法は選択肢をタブレット表示や板書をするなどして明確にする。それでもよく理解できていない生徒に対しては個別に声をかけるなどして働きかける。
	2学年	③ 自己選択	自己選択の機会があったと約90%の生徒が回答しているが、指定された方法や周りの友達と同じ方法をなんとなく選んでいる生徒が約10%だった。指示を聞き逃している生徒もいる可能性がある。視覚的な訴求が必要である。	選択肢を板書するなどして明確にする。さらに選んだものをクラスルームやオクリンクなどで共有させ、選択に偏りがあるかどうかを確認し、なんとなく選んでいる生徒に働きかける。
	2学年	③ 自己選択	授業で自己選択の時間があったかという質問に約80%の生徒が肯定的な回答をしていたが、自己選択についてはステージ0、ステージ1にとどまった生徒が37%だった。自分の目標に向かってどのような方法を選択するか考え、選ぶ時間と指導が必要だということがわかった。	自分の目標に合った方法を選ぶための選択肢を明確に提示する。生徒が選択する時間を十分に確保する。その学び方が適切であったか、次の目標に向かうにはどうしたらよいか、振り返りで確認する。
	3学年	② 見通し・ゴール	学習の進め方や単元の目標、学び方を見通す時間があったと71%の生徒が肯定的な回答をしていたが、学習のゴールに向かい計画的に手順を組み立てて進めた生徒が55%だった。単元始めに目標や見通しを立て、具体的な手順を明確にする指導や時間が必要だということがわかった。	単元始めに、「ふり返しシート」や「アクティビティシート」を利用して、単元の目標に向かって手順を組み立て、授業ごとに立てた見通しを振り返り、手順を修正する時間を設ける。
	1学年	② 見通し・ゴール	学習の進め方や単元の目標、学び方を見通す時間があったと86%肯定的な生徒がいたが、学習のゴールを計画的に手順を組み立てて進めた生徒が44%だった。計画の段階で手順を提示して一緒に考えさせる必要がある。	単元始めに、単元の目標に向かって学習の手順を確認し一緒に組み立て、単元の途中で、立てた見通しを振り返る時間を設ける。
	2学年	② 見通し・ゴール	学習の進め方や単元の目標、学び方を見通す時間があったと92%肯定的な生徒がいたが、学習のゴールを計画的に手順を組み立てて進めた生徒が66%だった。計画の段階で手順を提示して考えさせる必要がある。	単元始めに、単元の目標に向かって学習の手順を組み立て、中間指導で現在の学習状況を確認し、生徒が必要に応じて立てた見通しを振り返られるようにする。
	3学年	② 見通し・ゴール	学習の進め方や単元の目標、学び方を見通す時間があったと71%肯定的な生徒がいたが、学習のゴールを計画的に手順を組み立てて進めた生徒が55%だった。計画の段階で手順を自分なりに考えさせる必要がある。	単元始めに、「ふり返しシート」や「アクティビティシート」を利用して、単元の目標に向かって手順を組み立て、セクションごとに立てた見通しを振り返る時間を設ける。

授業改善推進プラン

～自ら課題を見付け、主体的に解決する生徒の育成～

西東京市立田無第三中学校

1学年	② 見通し・ ゴール	学習の進め方や単元の目標、学び方を見通す時間があつたと94%肯定的な生徒がいたが、学習のゴールを、手順を組み立てて進めたり、自分で修正したりしながら最後まで計画的に進めた生徒の割合は66%だった。手順を明確にし、振り返るだけでなく、作業一つ一つを丁寧に伝える時間も必要だということが分かった。	単元始めに、「ふり返しシート」や「アクティビティシート」を利用して、単元の目標に向かって手順を組み立て、毎時間立てる目標を振り返る時間を設ける。
2学年	③ 自己選択	授業で自己選択の時間があつたかという質問に約91%の生徒が肯定的な回答をしていたが、自己選択についてステージⅠまでにとどまった生徒は25%だった。自己選択の手段をもっと明確にし、例を挙げる時間も必要であると感じた。	自分の目標に合った方法を選ぶための選択肢を明確に提示する。生徒が選択する時間を十分に確保する。学び方を自己選択してよいことを声掛けしていく。
3学年	② 見通し・ ゴール	学習の進め方や単元の目標、学び方を見通す時間があつたと84%肯定的な生徒がいたが、学習のゴールを、手順を組み立てて進めたり、自分で修正したりしながら最後まで計画的に進めた生徒の割合は60%だった。手順を明確にし、振り返るだけでなく、作業一つ一つを丁寧に伝える時間も必要だということが分かった。	単元始めに、「ふり返しシート」や「アクティビティシート」を利用して、単元の目標に向かって手順を組み立て、毎時間立てる目標を振り返る時間を設ける。